

令和3年度 第3回 学校運営協議会（報告）

（兼学校関係者評価委員会及びコンプライアンス委員会）

日時：令和4年2月8日（火）

午後2時～4時30分

会場：静岡高校 視聴覚室

1 授業参観

2 開 会

- ・校長挨拶

第2回以降の学校の様子、学校行事の実施状況等を報告

3 報告・協議等

（1）1年間の学校運営等について

- ・ **全日制の課程**（須藤副校長、熊ヶ谷教頭）（第3回協議会資料「全日制」P.3～17）

学校経営計画の目標に対する取組と成果、生徒・保護者による学校アンケート結果等による学校自己評価について説明。

オンリーワン・ハイスクール事業では医学講座や探究講座、大学訪問、WWL高校生国際会議やPDAディベート大会への参加等が実施されたが、緊急事態宣言等による延期や一部中止があった。オンライン活用等工夫しながら実施している。

- ・ **定時制の課程**（花崎教頭）（第3回協議会資料「定時制」P.3～13）

学校経営計画の目標に対する取組と成果、学校生活振り返りシート及び授業アンケート結果等による学校自己評価について説明。

第2回協議会で助言いただいた社会や第三者機関との連携を視野に、外部講師を招請しマナー講座やソーシャルスキルトレーニング講座を実施した。生徒からも知りたい内容だった、このような機会が欲しかったと前向きな意見が出ており、今後も続けていきたい。

<意見・質疑応答>

A 委員：社会と学校の結びつきについて伺う。自分は中学校や高校に呼ばれることも多く、高校では地域社会との連携、課題解決について話す。静岡高校が国際的な視野を持つ会議や社会貢献活動などに参加している成果は十分素晴らしいが、市内高校では地域社会を良くするアイデアを出し、実践する活動を非常に熱心に行っている。なぜ、そんなに熱心か尋ねたところ、成果によって良い大学に推薦して貰えることもあるという。静岡高校は推薦でなく勉強による進学が本望とは承知しているが、周りの高校と一校だけ違う世界にいることを心配している。大会での発表や演奏などはそこに行き参加したという活動ではあるが、地域の問題や世の中の課題をしっかりと見つめるといった視点があまり感じられない。例えば、先日視察した熱海高校のボランティア部では、土砂災害にあたり自分たちにできることは何かといった課題に取り組む、高齢者へのアンケートなどを実施していた。部活動でもいい、世の中を真剣に見つめて何ができるかを考える文化が静高にもあった方がいいのではないか。色々な学校を訪ねる中、我が母校に感じたこと。

- 教 頭 : ファンシーアート同好会では生徒のみでなく保護者に協力を求めたフードバンク活動を実施している。また、社会問題として食に関するテーマで大豆ミートの試食会を行った。1年生の探究ゼミ活動では、地域課題をテーマとする生徒もおり、少しずつではあるが社会に目を向けた取組も見られる。
- 校 長 : 市内高校では様々な取組や活動が大学の推薦などに関わるといった話は聞いている。探究の授業はどの高校でも実施しており、地域課題に取組み成果をあげる学校もあるが、本校では、地域に限定せず、広く社会全体、世界を視野に入れた課題をテーマに取り組みしており、若干視点が異なる部分もある。しかし、市内の地域活動に関する高校生発表会にも出席しており、そういった活動をもう少し増やしていく必要もあるかもしれない。
- B 委員 : 全日制生徒アンケートの質問 25「施設・設備の適切な整備と思う」生徒が50%程度と低くなっている。どのような内容と捉えているのか。
- 事務長 : 質問の中でも低い値となっており心苦しい。トイレは古い和式のものが多く、ロッカーにも錆が見られるなど、校舎や建物・設備が全て古い。市内の中学校でも新しい設備が整っており、進学後に生徒は差を感じている。県の予算で全て対応することは難しく、県の予算と後援会やP T Aの補助などを活用し、教室のI C T設備充実やロッカーの一部交換、机・椅子の整備等設備改修を順次進めている。県予算では特に大きな改修が対象となっており、去年は普通教室エアコンを新設取替、次年度以降は校舎トイレの全面改修に取り組む予定である。全体として古い設備を新しく変える時期であり、後援会・P T Aにも協力いただきながら、生徒が良い学校生活を過ごせるような設備改修に努めていきたい。
- B 委員 : 色々と配慮いただき、ありがとうございます。設備が古い状態が悪いとは思わない。どうすれば環境が良くなるのか、分析する思考回路を育てることが静高生の教育の場にもなる。保護者に説明することは必要なので、なぜお金が無いのか考えたり、プレゼンテーションできたりすると良い。アンケートの中にいくつか保護者より生徒の方が良いと思っている回答がある。ここが大事な部分で、質問4「授業がよくわかる」、18「進路指導が適切に行われている」、31「知的好奇心を喚起する事業が行われている」など、職員のみなさんがやっている企画力、実行力に関わる部分が非常に高く評価されている。物は古いかもしれないが、先生方が一生懸命やっていることが生徒に伝わり、きちんと感じとることができている。静高として何が求められているのか。全日制では中学トップレベルの生徒が進学してきて、この高校でなければできないことを実行して正しく導いてあげることが大切。身近にある細かな体験も大事だが、同時に世の中の大きな部分にきちんと目を向けていくことができるのが静高だと思う。最後にどこを目的とするのか、市民、県民、そして世界といった大局を見据える、そういった指導に力を入れて欲しい。
- C 委員 : アンケート質問 10「将来にはっきりとした夢や希望を持っている」の数値が他よりあまり高くない。質問 16「知的好奇心を喚起する授業が行われている」も低く、特に2年生になると低くなっている。この2つは関係しているのではないか。希望を持ってないから何をしたいかわからない、勉強も難しくなり、知的好奇心も薄れる。この部分をうまく指導できると良いかもしれない。質問 31「知的好奇心を喚起する事業」のように、勉強が難しくなった時に知的好奇心を喚起するような授業に少しずつ変えていけると良いと思う。

- 副校長： 知的好奇心を喚起するような授業づくりは、授業改善として得意な教員が非常によく進めている。全体としては静高の授業として必要な部分かを考えて進めていきたい。将来の夢や希望を持つきっかけは色々あるため、進路指導も変えてきており、面白い取組、将来を意識した取組を進めている。
- 進路課長： 本校は学力を伸ばすことが重要な使命だが、最初の委員御指摘のとおり、偏差値だけで大学を選択することなく、社会に出てどのような人間になるのかイメージを持ち、進学を選択するような進路指導に変えてきている。進路だよりではOB・OGに大学や仕事に関するより具体的な情報を寄稿して貰っている。生徒の心に何かがかかると劇的に変わることもある。少しずつだが進路指導も変えていき、生徒の意識を高めていきたい。
- D 委員： 大学の仕事で高校を廻っているが、最近の進路指導のトレンドは、補習など学習指導に加え、低学年あるいは2学年初期の段階に生徒の心を動かすような体験、きっかけを用意すること。大学や仕事を選ぶきっかけを与え、生徒の心に灯をともしようとする指導ができると、子供たちは勝手に自ら勉強や行動をしていく。これは県外の私立高校が非常に上手にやっていて、進学実績も上げている。子供たち自身も社会に貢献する人間になっていくことを間近に見ていることがわかる。静高もすごく良くやっているとと思うが、さらに指導向上となると良い。
- E 委員： 2点伺う。1つは生徒数だが、本年度は1年生が7クラスと1クラス減ったが、来年度は増えるような話を聞いた。生徒が多い方がオンリーワン・ハイスクール事業などの目標にあるような良い大学に入る生徒も増えると思う。もう1つは働き方改革だが、時期によって忙しいこともあると思うが、残業代支払いや健康管理の問題などが裁判になるような事例もあり、職員の残業時間が多い場合、やはり何か対策を立てなければならないのではないかと。
- 校長： 県立学校の募集定員は県が決定する。昨年は中学生の総数が減少したため、西部でも浜松北や浜松市立など全県で30校近くが1クラスずつ生徒数減となった。令和4年度の新入生は生徒数も少し戻り、本校でも1クラス増と戻る。働き方改革については、本校では授業時間が65分あり土曜日にも実施しており、充実した授業、知的好奇心を喚起するような授業をつくる場合、時間を要する。その上で、様々な興味関心を高めようとする生徒の希望に合うような特別な講座、事業も行っている。先生方の好意に甘えている部分もあり、有効な対策も難しい状況だが、意識しており、さらに対策を立てていきたい。
- F 委員： 会議前に授業参観でジョー先生の英語の授業を見た。「おじさんたちが入って来ても意識しない」など、流暢な英語によるユーモアある呼びかけなどがとても良かった。県内でも授業が全て英語という私学の学校もあったと思うが、これからの時代、英語はさらに重要だと思うので、オーラルイングリッシュに触れるような様々な英語の授業を増やして欲しい。もう1つ、やはり自分も働き方改革が気になる。一般の会社の評価は、売上利益はもちろんだが、最近では、環境・セキュリティ・働き方改革の3つがキーワードとなっている。残業が月80時間、さらに3か月続く場合、休暇の使い方も含めて、社員にも意識させる必要がある。社員の負担と配置も考える。科学技術高校では専門分野があるためか、先生がもっと多い気がする。静岡高校も教員を増やすように、是非、県に要望して欲しい。月80時間残業では医師の面談を受けなければならないが、心身の不調だけでなく、部活動が大変だとか同じ教師ではない第三者として相談もできる。会社なら勤務地や環境を変える

こともできるが、先生の場合は部活動や担任を変えるといった工夫などが考えられる。先生方のことを考え、管理職による対応が必要だと思う。

副校長 :

第1回会議でも働き方改革を強く指摘されており、全て御意見のとおりで、対策も進めてきた。相談や割振など現場としてできることは色々やっているが、新型コロナ対応やGIGAスクール構想など対応を迫られることが次々と来ており、コントロールできない部分もある。我々が精選して減らした業務に対して、膨大な量の業務が国や県から降りてくることが実態としてある。可能であれば、教員を増やす要望も出したいが、しくみとしては難しく、もどかしい現状を感じている。

校長 :

教員数の増員は県に要望したいところだが、公立高校は規模等により定数が決まるため、非常に難しい。そこで、必要な部分に外部の力を借りていく。本校であれば、多くの保護者が協力してくれている図書館ボランティア、部活動や生徒が関心を持つ事業にも外部の方に指導協力をお願いしている。

PTA会長 :

現役受験生である子供から「数学の授業は楽しいが国語は大変」など色々聞いている。授業全体については非常に満足しているようで、先生方には感謝している。ただ、気になる点は、知っている親御さんの子供が学校に行けなくなったと聞いた。子供から聞いたことがないし、自分の時代もなかったのでいじめではないと思うが、今年は1年生と2年生それぞれにいて、毎年何人かはそういった生徒がいると聞いた。先生方も大変だし、授業の内容が難しいなど子供自身の内的要因もあると思うが、外的要因にも対応していただけると、せっかく入った静高で過ごすことができるのではないかと感じてしまう。自分の子供は無事に3年間過ごしたが、そういった子供たちにも対応していただきたいと感じている。

相談室長 :

学校に来られない生徒は毎年数人いる。本当に難しい問題で、担任の先生方は非常に熱心に対応している。本人の相談だけでなく、保護者面談や家庭訪問など、働き方改革に合わないが時間外にも色々な対応をしている。本校で7年担当してきたが、多くは成長する思春期のトラブルという感じがする。現在のスクールカウンセラーは静高の先輩にあたる先生で親の相談も多い。親自身がどうしていいかわからないとの相談が非常に多く、社会的な問題でもある。相談室でもできることを色々やっているが、すぐに改善できるものではない。中学校まで輝いていた子が静高では一般人となり、輝ける場所が見つからない、そんな駄目な自分を見せたくないと言う子が多い。乗り越える子もいれば、中には乗り越えられない子もいる。どの道に行ってもトンネルを抜ける日が来ると信じ、対応している。今年度は1月までに延101件のカウンセラーによる相談を実施した。あまり相談に来ない傾向の静高生だが、週1回3人程のカウンセリング予約は常に埋まっている。現状はうまくいかない面もあるが、今後も指導を仰いで対応していきたい。

G 委員 :

第2回協議会で定時制0時間目を拝見し、大変感銘を受けた。本日のデータにその報告はないが、子供たちが個別に学習を行い、自分と向き合っている貴重な時間なので、いずれ良い結果が生まれると信じている。その報告も是非データとして欲しい。全日制はトップ進学校として至極当たり前というような高い数値を示している。オンリーワン・ハイスクール事業の予算は、少ないながらもこのコロナ禍の中で良く使っていると思う。ただ、中止になっている事業も多いので、例えば、STEMであれば科学技術、大学・企業等専門分野の方に大型モニタのライブ中継で話していただくなど、生徒を刺激するような取組、そういったしくみが早く整えられることを願っている。先

程、トイレ・エアコンなどに加え、IT環境も順次整えていただけるとの話なので期待している。何があっても、生徒にとって高校は入学から3年間の1回限り。できる限りのことをしてあげることが望ましい。私たちが思っているより、子供たちにとって学校のトイレ洋式化やエアコン設置など教室の環境を良くすることは重要で、環境によって学習力が伸びることもわかっている。コロナ対応で国全体の予算が減ってきているので、予算は静岡県だけの問題ではない。そんな中でも、関連企業や優秀な卒業生、同窓会など色々バックアップして貰いながら、進学指導と知的好奇心で学んでいくという両方の相乗効果で生徒のきっかけづくりもできると思う。中々、現場に行けない状況だが、コミュニティスクールは設置要綱のとおり学校・教職員を応援していく組織でもあり、学校の改善や要望などについて、学校運営協議会の名で県教委へ文書で直接訴えていくような方法もある。

(2) スクール・ポリシーについて (小関校長)

- ・ 令和4年度スクール・ポリシー案を説明。(第3回協議会資料「全日制」P.18、「定時制」P.15) 新学習指導要領等を踏まえ、学校運営協議会でいただいた「学校の良さや強みを取り入れる」「期待される社会的役割」などの御意見を参考に、教職員全体で研修も兼ねて1年間ブレインストーミングを繰り返し、原案を作成した。定時制についても「地域の一員」「自立すべき力」「他者を思いやり協働する」など委員の意見を取り入れた内容となっている。

<質疑応答>

A 委員 : 先生方が一生懸命考えてくれた素晴らしい案だと思う。「社会に貢献」や「周囲への感謝を忘れない」など大切な言葉が入っている。勉強だけでなく社会や地元にも目を向ける素敵な人たちになって欲しい。静高には昔から偏差値の高い大学に入るための勉強をする意志がなく入った人もいて、そういう人たちは部活動を頑張ったりしていた。勉強で頑張って評価される上位の人も、そうでない人もこの学校に来て良かったと前向きに生きる人が増えれば、トップの人たちをさらに押し上げていく。

B 委員 : 正にこの案のとおりだと思うので実行して欲しい。内容は普遍的な抽象的なものとなっているので、具体時な人物像、例えば歴史上の人物でもいいので、こういう道の先にこういう人物がいると伝えると、わかりやすく理解できると思う。

C 委員 : 素晴らしいポリシーだと思う。全日制は、日本のリーダー、世界のリーダーの養成と捉えられるが、定時制は地域の一員となっている。この表現でよろしいか。

校長 : かつての定時制とは状況が変わってきており、現在の実態を踏まえた表現となっている。先程の意見のとおり、どちらの課程も本校は勉強だけでなく、部活動を頑張っている生徒などもある。本校は、目的を持って入学し、3年間自分を成長させ続ける意志のある者を育てていく。そんなメッセージも含んだ表現となっている。看板に示すだけでなく、実行していくことが大切だと思う。御意見にあった具体的な人物を示すことなども有効な手段であり、実行していきたい。

D 委員 : 委員全体として、良いスクールポリシーであるという御意見なので、全日制、定時制課程ともに、全員一致で承認ということではよろしいか。

- ・ 令和4年度スクール・ポリシーについて、案のとおり承認された。

(3) 不祥事根絶の取組について (副校長)

- ・ 令和3年度の取組について説明(第3回協議会資料「全日制」資料P.19~28)
4月当初に取組計画を作成し県へ提出。チェックシートや事例紹介を活用し、コンプライアンス等について、毎月、職員全体で研修を実施。本協議会の意見を踏まえ、策定することとなる。

<質疑応答>

- D 委員 : 教育界にいて、不祥事根絶の一つの鍵となるのは、やはり職員自身であり、職員間の意思疎通が大切だと感じる。風通しが良いと、溜まっているものも吐き出して軽くなる。この点で、工夫している点があれば教えて欲しい。
- 副校長 : 年に2回管理職との面談を実施しているが、職員は本当に色々な思いを吐露している。悩みも聞かし、学校を良くする提案までしてくれる。また、管理職のみでなく、学年主任がコミュニケーションをとるよう声掛けしてくれているということだった。学年や教科などで良いものをつくっていこうという文化がある。
- 校長 : 学校によっては、職員が研究室や準備室で仕事をするが、本校はほとんどの職員が職員室で過ごす時間が多い。職員室で学年などを中心によくコミュニケーションをとっていると思う。

(4) その他

・校長より

現在、国のGIGAスクール構想により全ての小・中学生が1人1台パソコン端末を使用しており、来年度はその1期生が高校入学となる。GIGAスクール構想では高校も1人1台端末を用意することとなり、静岡県も貸出用端末の整備を進めている。しかし、全生徒分は現段階では整備されないため、BYODとして自らの端末を持ち込む形となる。本校でも教科指導等で話し合った結果、電子辞書を購入している部分をiPadに替えて購入するようお願いすることとなった。興味関心、知的好奇心を喚起するような授業改善の中、1人1台端末利用を含め、さらに授業を変えていくことになる。学校運営協議会、委員の皆様にご意見を踏まえ、来年の学校運営を進めていくので、また見ていただきたい。御意見がありましたら、是非、学校にお寄せいただけると有難い。1年間に渡り、多くの有意義な御意見をいただき、本当にありがとうございました。

4 閉会・諸連絡

(1) 学校関係者評価について

- ・ 全日制、定時制課程それぞれの評価を記入し、2/18までに提出をお願いします。

(2) 議事録について

- ・ 後日、ホームページ等へ議事録を掲載する。

(3) 次年度運営協議会について

- ・ 本年度同様に3回程度開催予定。来年度の依頼については後日お知らせする。